

市川橋遺跡

—城南土地区画整理事業に伴う発掘調査略報5—

平成15年3月

多賀城市教育委員会
多賀城市城南土地区画整理組合

はじめに

今回の調査は、平成10年度から始まった城南土地区画整理事業に係る発掘調査の最終年度に当たる。昨年度に引き続いて区画街路（D区）の他に、新たに商業用地（C区）、貯水槽（B・D区）、水路切り回し工事（D区）などの諸事業に関する調査を実施した。主として前半は区画街路関連の調査を行い、後半は水路改良工事、商業地区・貯水槽建設関連調査にあたった。調査は基本的に事前調査であるが、商業地区の駐車場部分約750m²は確認調査として実施した。調査面積は合計3,551m²である。



城外の方格地割りと調査区の位置

1. 発見した遺構の概要

D区では区画街路部分として、30・103・104・105区の調査を実施した。103区では、四面庇付建物の北側で東西方向に並ぶ10世紀前葉頃の建物群を精査し、その周辺からさらに多くの建物や竪穴住居を発見した。30区では、10世紀頃の遺構検出面の下層からも建物群を検出し、9世紀から10世紀にかけての遺構が複雑に重複する状況を確認した。105区では、南1道路の南側において南・東の二面に庇が付く東西棟建物を発見し、北側では東0道路の東側溝を約28m検出して3時期の変遷を確認した。また、その周辺において三面以上に庇が付く南北棟をはじめ、道路建設以前、以後の建物6棟を発見した。

C区では、商業用地として115・116区の調査を行った。東西大路の延長線上において大路より小規模な東西大路東道路を発見し、116区では東3道路との変差点、115区中央部では路面を横断する溝とそれに架けられた小規模な橋を検出した。

貯水槽部分の調査はB区で1箇所（119区）、D区で3ヶ所（117・118・120区）実施した。119区は微高地の縁辺にあたり、遺構・遺物とも確認できなかった。120区は東0道路の路面に相当し、10世紀前葉の灰白色火山灰が厚く堆積していたのみであった。117区では、30区から93区にかけて東西方向に延びる大溝を1条確認し、その南側で土壤等を発見した。118区では、小規模な溝を2条発見したのみである。



30区 10世紀前葉以前の建物群（南より）



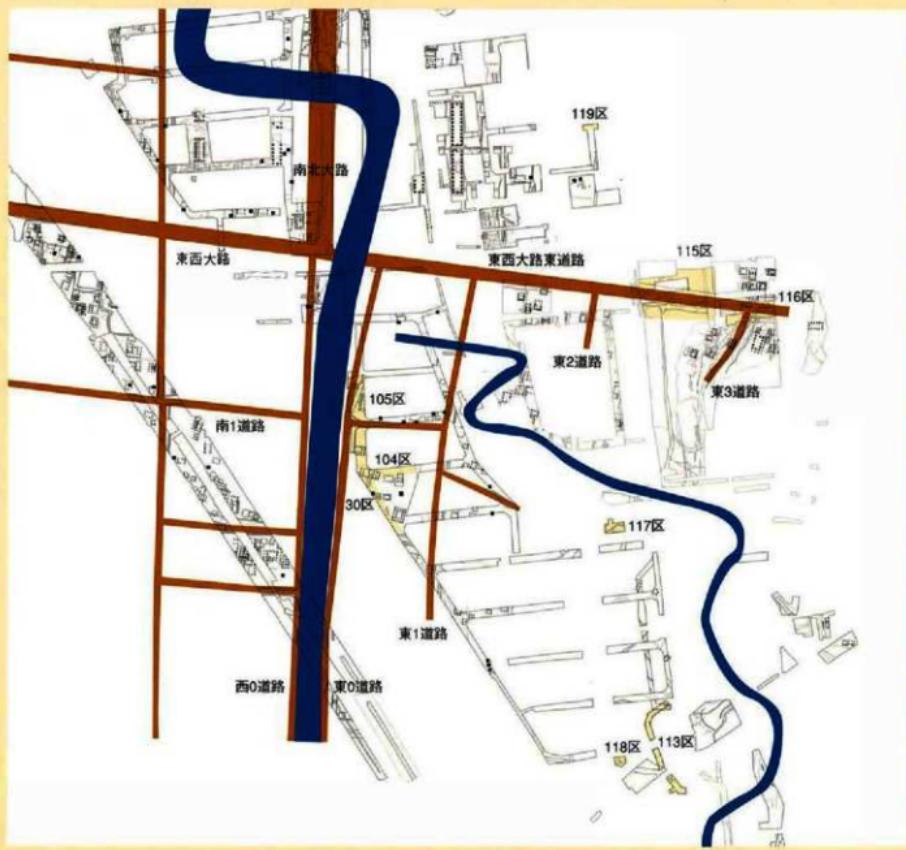
103区 10世紀前葉頃の建物群（南より）



105区 9世紀頃の底付建物（西より）



105区 東0道路（北より）



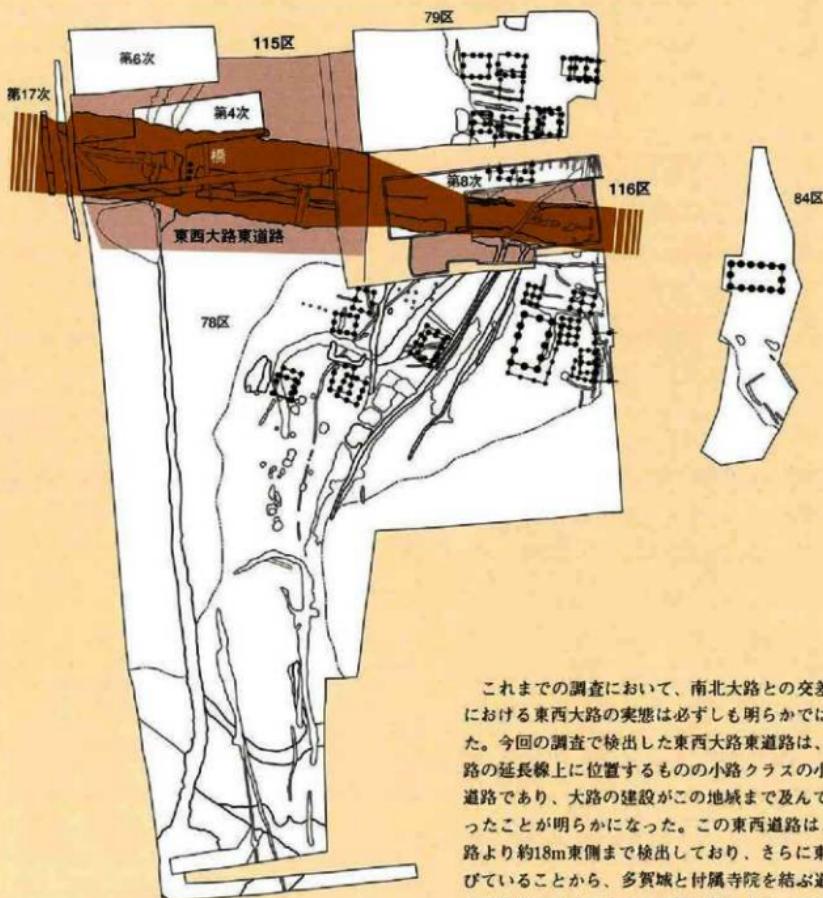
調査区周辺遺構模式図

115・116区の成果

東西大路東道路は、地形的に低い115区では基盤の沖積層上に直接建設されており、丘陵部に接する116区では整地地形を施した上に建設されている。6時期の変遷を確認し、最新段階のものについてみると、115区では側溝心々間距離が約11.0mであるのに対し、路面幅は約4.5mと狭く、北側溝が上幅約9.0m、南側溝が約4.5mといずれの側溝も規模が大きい。116区で

は側溝心々間距離が約6.0m、路面幅は約5.0mであり、北側溝は上幅約0.6m、南側溝は0.9m以上である。

東3道路は南北3道路の南側に接続するが北側には存在しない。9世紀後半頃の東西大路東道路改修時には、その整地地形によって交差点付近が埋められている状況を確認した。



これまでの調査において、南北大路との交差点以東における東西大路の実態は必ずしも明らかではなかった。今回の調査で検出した東西大路東道路は、東西大路の延長線上に位置するものの小路クラスの小規模な道路であり、大路の建設がこの地域まで及んでいなかったことが明らかになった。この東西道路は、東3道路より約18m東側まで検出しておらず、さらに東側に伸びていることから、多賀城と付属寺院を結ぶ道路のあり方を考える上で大きな成果と言えよう。現在この道路の行方についての手がかりはないが、今回の調査によって丘陵部まで続いている可能性が高まった。



115・116区航空写真

東西大路の延長線上で発見した東西大路東道路。路面に對して側溝の規模が大きい（写真上が南）。



115区東西大路東道路（東より）



116区東西大路東道路（西より）

丘陵に近い部分では広範囲に整地地形を施している。



東西大路東道路に架けられた橋

全長5.0m以上、幅2.8m。本体の中央を3本の丸太材で支え、溝の両岸を杭等で護岸しただけの単純な構造。



橋脚構築状況

丸太材は直径約25cmであり、約1.2・1.6mの間隔で打ち込まれている。



東西大路東道路杭列検出状況

南側溝に沿って直径4~8cmの細い杭列を発見した。路面構築に関わるしがらみの痕跡とみられる。



横笛出土状況

吹口と6個の指孔が確認できた。全長34.3cm。東西大路東道路の北側溝から出土した。年代は9世紀後半頃。



漆紙出土状況

東3道路の西側の浅い落ち込みから出土した。

2. 発見した遺物

今回の調査では、古代の土器類をはじめ、木製品、金属製品、石製品、漆紙、動物遺存体など各種の遺物が出土している。土器は9世紀代を中心とし、墨書き土器が105点ある。木製品は挽物皿や曲物などの出土量

が多く、鍔や馬櫛、祭祀遺物である斎串、人形、絵馬なども少数ある。木簡は今回も8点出土し、横笛、花形漆塗製品など類例の少ないものもある。金属製品の小刀や鎌、石帶（鉈尾）、漆紙も出土している。



花形漆塗製品

5葉の花弁を象ったもので、外面に黒色の漆を塗っている。中央に銅製の釘が貫通しており、建物や調度の装飾品と考えられる。年代は9世紀後半頃。(S : 1/1)



絵馬 (S : 1/2)



馬櫛



馬櫛 (S : 1/1)



人形 (S : 1/1)

- 1 本書は、平成14年度に実施した市川橋遺跡第29次調査の略報である。
- 2 発掘調査は多賀城市埋蔵文化財調査センターが担当し、4月8日～5月31日、7月29日～10月29日まで実施した。
- 3 発掘調査から資料整理に至るまで、土地多賀城市城南土地区画整理組合、大木建設（株）よりご指導・ご協力を賜った。
- 4 本書は、調査員千葉孝弥、島田敬、鈴木孝行、斎藤稔、菊池豊、佐藤恵子、文屋亮が協議し、千葉が執筆・編集した。

多賀城市文化財調査報告書第68集

市川橋遺跡

—城南土地区画整理事業に伴う

発掘調査略報5—

平成15年3月20日 発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

多賀城市中央二丁目27番1号

電話 (022) 368 - 0134

発行 多賀城市教育委員会

多賀城市中央二丁目1番1号

電話 (022) 368 - 1141

印刷 今野印刷株式会社

仙台市若林区六丁目の西町2番10号

電話 (022) 288 - 6123

